

学校法人田村学園寄附行為

第1章 総則

第1条 この法人は、学校法人田村学園と称する。

第2条 この法人は、事務所を東京都目黒区下目黒4丁目10番24号(多摩大学目黒高等学校)に置く。

第2章 目的及び事業

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、学園建学の精神である「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎とし、豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成することを目的とする。

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- (1) 多摩大学 経営情報学部 経営情報学科
- (2) 多摩大学 経営情報学部 事業構想学科
- (3) 多摩大学 グローバルスタディーズ学部 グローバルスタディーズ学科
- (4) 多摩大学大学院 経営情報学研究科
- (5) 多摩大学附属聖ヶ丘高等学校 全日制課程 普通科
- (6) 多摩大学附属聖ヶ丘中学校
- (7) 多摩大学目黒高等学校 全日制課程 普通科
- (8) 多摩大学目黒中学校
- (9) 目黒幼稚園
- (10) 大森双葉幼稚園
- (11) 三宿さくら幼稚園

第5条 この法人は、その収益を学校の経営に充てるため、次に掲げる収益事業を行う。

スイミングクラブ

第3章 役員及び理事会

第6条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
- (2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 理事(理事長を除く。)のうち1名以内を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときも、同様とする。

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 多摩大学の学長
- (2) 多摩大学目黒高等学校の校長
- (3) 評議員の中から評議員の互選によって定められた者 2名
- (4) この法人の功労者又は学識経験者の中から前3号に規定する理事の過半数をもって選任された者 2名

2 前項第1号第2号第3号に規定する理事は、学長、校長又は評議員の職を退いた時は理事の職を失うものとする。

第8条 監事は、この法人の理事、職員(学長(校長)、教員その他の職員を含む。以下同じ。)又は評議員以外の者であつて理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

第9条 役員(第7条第1項第1号第2号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。)の任期は4年とする。ただし、

補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

第10条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1を超えるものが欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

第11条 役員が次の各号の1に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき

(3) 職務上の義務に著しく違反したとき

(4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

2 役員は次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了

(2) 辞任

(3) 学校教育法第9条第1項各号に掲げる事由に該当するに至ったとき

第12条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

第13条 常務理事は、理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。

第14条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

第15条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、常務理事が理事長の職務を代理し、又はその職務を行う。

第16条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

(1) この法人の業務を監査すること

(2) この法人の財産の状況を監査すること

(3) この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること

(4) 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣(都道府県知事)に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること

(5) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること

(6) この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること

第17条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

3 理事会は、理事長が招集する。

4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。

5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除外のため過半数に達しないときは、この限りではない。
- 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、予め意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。
- 第18条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であって、予め理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。
- 第19条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。
- 2 議事録には、出席した理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

- 第20条 この法人に、評議員会を置く。
- 2 評議員会は、14名の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければその会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、予め意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。
- 第21条 第19条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員2名以上」と読み替えるものとする。
- 第22条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、予め評議員会の意見を聞かなければならない。
- (1) 予算、借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
 - (2) 事業計画
 - (3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
 - (4) 寄附行為の変更
 - (5) 合併
 - (6) 目的たる事業の成功の不能による解散

- (7) 収益事業に関する重要事項
- (8) 寄付金品の募集に関する事項
- (9) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

第23条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

第24条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 多摩大学の学長
- (2) 多摩大学目黒高等学校の校長
- (3) この法人の職員(この法人の設置する学校の教員その他の職員を含む。この条以下同じ。)の中から理事会において選任された者 3名以上4名以内
- (4) この法人の設置する学校を卒業した者で25歳以上の者の中から理事会において選任された者 2名
- (5) 理事の中から理事の互選によって定められた者 1名
- (6) この法人に関係のある学識経験者で前5号に規定する評議員の過半数をもって選任された者 5名以上6名以内

2 前項第1号第2号第3号第5号に規定する評議員は、学長、校長、この法人の職員若しくは理事の職又は地位を退いた時は評議員の職を失うものとする。

第25条 評議員(前条第1項第1号第2号に規定する評議員を除く。)の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

第26条 評議員が次の各号の1に該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
- (2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

2 評議員は次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任

第5章 資産及び会計

第27条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産及び収益事業用財産とする。

2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。

3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。

4 収益事業用財産は、この法人の収益を目的とする事業に必要な財産とし、財産目録中収益事業用財産の部に記載する財産及び将来収益事業用財産に編入された財産とする。

5 寄付金品については、寄付者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産、運用財産(又は収益事業用財産)に編入する。

第29条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

第30条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確

実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

第31条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

第32条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

2 この法人の会計は、学校の経営に関する会計(以下「学校会計」という。)及び収益事業に関する会計(以下「収益事業会計」という。)に区分するものとする。

第33条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

第34条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決がなければならない。借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)についても、同様とする。

第35条 この法人の決算は、毎会計年度終了後2月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

3 収益事業会計の決算上生じた利益金は、その一部又は全部を学校会計に繰入れなければならない。

第36条 この法人は、毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類及び第16条第3号の監査報告書を法人本部に備えて置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

第37条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後3月以内に登記しなければならない。

第38条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

第6章 解散及び合併

第39条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- (1) 理事会における理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決
- (2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の3分の2以上の議決
- (3) 合併
- (4) 破産
- (5) 文部科学大臣(都道府県知事)の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

第40条 この法人が解散した場合(合併又は破産によって解散した場合を除く。)における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席した理事の3分の2以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益法人に帰属する。

第41条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第7章 寄附行為の変更

第42条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、文部科学大臣に届出なければならない。

第8章 補 則

第43条 この法人は、第36条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に法人本部に備えて置かなければならない。

- (1) 寄附行為
- (2) 役員及び評議員の名簿及び履歴書
- (3) 収入及び支出に関する帳簿及び証票書類
- (4) その他必要な書類及び帳簿

第44条 この法人の公告は、多摩大学目黒高等学校の掲示場に掲示して行う。

第45条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

この法人設立当初の役員は、次のとおりとする。

理 事	田村國雄
理 事	田村邦彦
理 事	小山稲五郎
理 事	小 山 貞
理 事	島 村 弘
監 事	住田 良价
監 事	渡辺 熙一

附 則

この寄附行為は、昭和26年 3月12日から施行する。

附 則

この寄附行為は、昭和62年 9月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可の日(昭和63年12月22日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可の日(平成元年 5月16日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 2年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 5年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 6年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 7年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可を得て、平成 7年 9月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部大臣の認可の日(平成12年10月 6日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成17年 8月31日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成17年12月 1日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成18年11月30日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成20年 7月31日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成21年 2月12日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成26年 7月11日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、平成27年 4月 1日から施行する。

(多摩大学経営情報学部マネジメントデザイン学科の存続に関する経過措置)

多摩大学経営情報学部マネジメントデザイン学科は、改正後の寄附行為第4条の規定にかかわらず平成26年度以前に入学した当該学科に在学する者が在学なくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成28年 7月13日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成29年 9月13日)から施行する。

附 則

この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成30年 3月30日)から施行する。

学校法人田村学園役員名簿

令和元年9月1日現在

No	役職	氏名	備考
1	理事	田村嘉浩	理事長
2	理事	寺島實郎	
3	理事	田村邦彦	
4	理事	木曾功	
5	理事	堀内勉	
6	理事	林博	
7	監事	北村健治	
8	監事	内藤娃子	